

3962 地球のかおり：「幸運の化身」(産経新聞) 心模様

厳寒のクリスマスイブ、早朝のイギリス、ロンドンの公園。
疲れて、傷ついていた、私の心をやさしく包み込み、生きる気力と夢まで来れました。

誰かの化身だったのでは？

写心という発見。写したと言うより、写ったという感覚。

私の大好きな作品。大切な心の財産。今も、しっかりしてよ！ とパワーをくれる。



足元も凍るような朝だったと記憶している。このリス君に出会ったのは。

木から降りてきて、不思議そうな様子、澄んだ眼。

その表貌と行動が面白く、時間を忘れて観ていると、眼と眼が・・・

普通なら逃げるもの、何を思ったか、私に近づいてきて、のぞき込むように見上げる。

その時、写真を撮ることなど忘れていたように思う。

私の魂が抜けて、気配が薄くなっていたのかも知れない。ふと、我に返った。

私は、スローモーションのように、リス君を刺激せず、

首から下げていたカメラを、リス君に向ける。小さなカメラだった。

眼と眼が合っているのに、逃げないでポーズをとるしぐさ。

瞬間、シャッターを押すことができた。

長くない、数秒だったように思う。実に不思議な時間だったと記憶している。

このリス君との物語は、これで終わらない。さらに不思議な出来事が起こった。

驚いたことに、私の身体に、這い上がってきたのである。爪をたてて。

焦げ茶色の皮のコート、微動だしなかったので、樹木と間違えたのだろうか、と思った。

爪が食い込む感触、妙に、落ち着いて冷静だった。心も開いていた。

頭の細胞が、一瞬、ちぢんだように、ゾクゾクした。

この体験、この実感は、感動そのもの。

私の心の芯に、核に、エネルギーを注入してもらったようなもの。

今も忘れないでいる。というより、忘れられない心の財産。実に不思議な出来事だった。

人間一つの事で、楽しくもなれる。人間一つの事で、助けられることもある。

大げさに言えば、気合が入り、人生の転換点になった。

今頃、どうしているだろうと、ふと思う。

今も、気弱になる時、初心に帰る意味で、この作品を見る。

どうしたの。しっかりして！ 私には、そう言っているように聞こえる。

私自身が感動し、心が慰められ、パワーまでもらった。

人の心を耕し、情操を育む作品創作。

その原点、初心忘れず、いつまでも心に残る。誰かの化身だったのではないか。

「幸福の化身」とタイトルをつけた。

頑張れる要因の一つ。今もそう思っている。今も、パワーをくれる。

前向きに。夢は探すのでなく、夢は創るもの。

始めなければ、始まらない。